

第1 乗用トラクター

1 適用範囲

作業機を装着、けん引又は駆動して作業を行う農耕用のトラクターであって、乗車して作業が可能なものに適用する。

2 一般事項

(1) 導入

ア 機械の導入に当たっては、価格や性能だけでなく、安全性も選択の基準とすること。
その際、一定水準以上の安全性を有する機械であることを示す型式検査合格証票又は安全鑑定証票の有無を参考とすること。

中古機械を導入する場合は、安全装備の状態、取扱説明書の有無等を確認し、適切な整備を行っているものを購入するか、又は適切な整備を行うこと。

イ 引渡し時には、機械の操作、安全装置等について十分に説明を受けること。

ウ 道路走行が可能な機械は、車両として必要な手続きを行うとともに、必要な運転免許を取得すること。

(2) 取扱説明書の熟読、保管等

取扱説明書を熟読し、機械の機能、使用上の注意事項、安全装置の使用方法、使用時の危険回避方法等について理解すること。併せて、機械に貼付してある安全標識を確認しておくこと。

取扱説明書は、保管場所を決め、いつでも取り出して読めるようにすること。

(3) 安全フレーム、安全キャブ、シートベルトの装着

ア 機械の転倒、転落による事故が多発しているので、安全フレーム又は安全キャブを装着可能な機械は極力装着し、併せてシートベルトも着用すること。

イ 安全フレームが可倒式の場合、納屋の出入りなどフレームが接触する場合を除き、運転時はフレームを立て、確実に固定して使用すること。なお、安全フレームを倒した状態では、シートベルトを着用しないこと。

ウ 安全フレーム等に強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合は直ちに交換すること。

(4) 目的外使用と改造の禁止

ア 本来の目的以外に使用しないこと。

イ 改造しないこと。特に、安全装置を取り外さないこと。また、安全フレーム、キャブに穴をあける等の改造を絶対に行わないこと。

3 作業前

(1) 緊急時の停止方法の周知

緊急時に備え、作業機の動力遮断方法、エンジンの停止方法を家族や作業員全員が確認しておくこと。

(2) 適切な服装、保護具の着用等

裾、袖口が締まっている作業服、ヘルメット、手袋、安全靴、保護めがね、イヤーマフ、その他の保護具を着用すること。腰手ぬぐい、首巻タオル、鉢巻をしないこと。

機械へ巻きこまれる恐れがある作業では、手袋を着用しないこと。

(3) 体調

体調が悪いときには、機械の運転をしないこと。疲労を感じたときには、休憩をとること。

(4) 天候

悪天候の際に、無理して作業しないこと。

(5) 点検、整備

使用前には必ず点検を行い、異常がある場合は整備するまで使用しないこと。

4 運転操作

(1) 機械への乗り降り

ア 原則として、機械を背にして乗り降りはしないこと。ステップを踏み外さないよう注意すること。ステップの泥は随時取り除くこと。

イ 転倒、転落の恐れがあるので、飛び乗り、飛び降りはしないこと。

ウ クローラー式の場合、転倒の恐れがあるので、クローラーに足をかけて乗り降りしないこと。

(2) 運転席まわり

ア ハンドル、座席は、操作上の最適位置に調節すること。ペダルを踏む妨げになり危険なので、足元に物を置かないこと。

イ 作業者の乗車位置以外の場所に人を乗せないこと。

(3) エンジン始動、発進

ア エンジンの始動は、必ず運転席に座り、各種操作レバーが中立位置にあり、駐車ブレーキがかかっていることを確認した上で、周囲をよく確認し、共同作業者等がいる場合は合図をしてから行うこと。

イ 発進は、周囲の安全を確認した上でゆっくり行うこと。

(4) 移動走行時

ア わき見、手放し運転をしないこと。

イ 急な発進、旋回、停止はしないこと。凹凸の激しい路面を走行するときには速度を下げること。特に、作業機の装着や物品の積載によって重心が高くなっているときには注意すること。

ウ 重量のある後方直装式の作業機を装着して走行する場合は、前輪にかかる荷重が減少して操舵しにくくなるので、速度を下げた走行し、必要に応じてバランス・ウェイトを装着すること。

エ 左右独立ブレーキの付いた機械では、走行、登降坂、畔越え時には、左右のブレーキペダルを連結すること。

オ 本機と作業機の幅や高さの違いに注意し、防除機のブーム、代かきローター等の幅が広いものは折りたたむこと。また、装着すべき防護カバー等は装着すること。

カ 転倒の恐れがあるので、段差のある場所への出入りや畦畔の乗り越えの際には直角に行い、段差が大きい場合は歩み板を使用すること。このときの要領は機械の運搬時と同様にすること。

キ 降坂時には、クラッチを切ったり、変速を中立にして惰性で走行しないこと。

ク 駐車などで機体から離れるときは、平坦地を選び、昇降部を下げ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーも抜いておくこと。止むを得ず傾斜地で機体を離れるときには、車止めもしておくこと。

燃えやすいわら屑や枯れ草等の上に機械を停めないこと。

ケ クローラー式の場合、車輪式とは旋回半径、旋回中心位置が異なることを理解しておくこと。また、凹凸を乗り越えるときは、急に機体が揺れることがあるので、必ず低速で進行すること。

(5) 道路走行時

ア 作業機は取り外し、装備すべき部品は取り付けること。

イ 作業灯を消灯し、デフロックを解除するとともに、昇降部落下防止装置を固定にした上で、交通ルールを遵守して走行すること。左右独立ブレーキのついたものでは、左右のブレーキペダルを連結すること。

ウ 一般の自動車との速度差が事故につながる人が多いので、低速車であることを表示するマーク（以下「低速車マーク」という。）、反射マーク等で目立つようにし、機体幅も反射マークや反射テープの貼付等により一般の自動車から認識されやすくすること。

エ けん引を行う場合は、トレーラーや被けん引車の連動ブレーキの作動を確認すること。

オ 原則として路肩を走行しないこと。やむを得ず路肩を走行する場合には、軟弱でないか十分確認すること。

(6) 燃料補給

火災の恐れがあるので、燃料補給するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷めてから行うこと。給油中は、火気を近づけず、機械から離れないこと。燃料キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふき取ること。

(7) 機械の運搬

トラック等への機械の積み下ろし、運搬の際には、転倒、転落の危険性があるので、以下に留意すること。

ア 準備

(ア) 運搬用車両には、駐車ブレーキをかけ、車止めで動かないようにすること。

(イ) 歩み板は、十分な幅と強度があり、かつ、すべり止め処理がしてあるもので、傾斜角度15度以下になるよう長さが運搬用車両の荷台高さの4倍以上あるものを使用すること。歩み板のフックを確実に運搬用車両の荷台にかけること。

イ 積み下ろし

(ア) 誘導者を決め、誘導方法を決めてから行うこと。誘導者は、危険を回避するため、機械の進行経路上に立ったり、機械に接近しすぎたりしないこと。

(イ) 作業機、アタッチメントの状態を考慮し、前後進どちらか適切な方向で極力低速で行い、歩み板の上では、操向、クラッチ操作、変速操作を絶対にしないこと。

(ウ) クローラー式の場合、運搬用車両の荷台と歩み板の継ぎ目を乗り越えるときは、急に機体が揺れることがあるので、注意すること。

(エ) 運搬経路に高さ制限があるところでは、それ以下になっているか確認すること。

ウ 機体の固定

本機には駐車ブレーキをかけ、十分な強度のロープ、ワイヤーロープ等で固定すること。

エ 運搬時

急発進、急ブレーキ、急旋回を避けること。

(8) 作業機、アタッチメントの着脱

- ア 事故や故障の原因となるので、作業機の用途、性能、必要なトラクターの出力、質量等の仕様を確認すること。
- イ 本機と作業機の取扱説明書は別であるので両方を使用前に熟読すること。読んだ後もすぐ閲覧できるところに保管すること。
巻きこまれや、機械を破損する恐れがあるので、事前にトラクターP T O軸と作業機の回転方向、適正な回転数を確認してから使用すること。
- ウ 着脱は、平坦で十分な強度を持つ床面上で、かつ、周囲のスペースに十分な余裕がある場所で行うこと。着脱の際には、作業機と本機の間や作業機の下に入らず、作業機にスタンド等がついている場合は、必ずスタンド等を使用して機械を安定させた上で行うこと。
- エ P T O伝導軸は適切な長さのものを使用し、連結は確実に行うこと。ピンの抜け止めを忘れないこと。防護カバーの回り止めチェーンも確実に固定すること。
操作不能や破損の原因となるため、作業機の油圧ホース、ワイヤーハーネスを正しい組み合わせで、確実に接続すること。
転倒の恐れがあるので、けん引は専用のけん引ヒッチを用い、絶対に車軸やトップリンク等で行わないこと。
- オ 着脱時に外した安全カバーは必ず装着すること。
- カ 機体のバランスをとるために、適切なバランス・ウエイトを取り付けること。なお、バランス・ウエイトは、腰痛にならないように注意して取り扱うこと。
- キ 巻きこまれる恐れがあるので、P T Oを使用しないときには、P T O軸キャップを装着しておくこと。

5 作業中

(1) 基本

- ア 補助作業者を扱う機械作業では、発進、作業機の動力の入り切りは補助作業者に合図して安全を確認した上で行うこと。また、補助作業者の体格、体力を考慮して、作業負担が過重とならないように作業速度等を調節すること。
- イ 機械から離れるときには、作業機を下げ、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、キーを抜くこと。
- ウ 作業機ごとに特有な作業方法、適切な作物条件等を習得しておくこと。
作業機、積荷の形態、質量、大きさによって、重量バランス、操向性能、ブレーキ性能等が変化することを考慮して運転すること。

(2) 転倒、転落防止

- ア 必ず運転席に座って運転し、座席や乗車位置以外のところに人を乗せないこと。
作業機に補助作業者が乗車する場合には、転落防止ガードやチェーンをかけること。
- イ バランス・ウエイトの代わりに人を乗せないこと。
- ウ 急旋回、急発進、急停止はしないこと。
- エ 転倒の恐れがある急な傾斜地で作業しないこと。また、作業方法を工夫すること。
- オ 旋回時前輪増速機構は、高速走行時や傾斜地では使用しないこと。また、フロントローダー装着時にも使用しないこと。
- カ 重量物のつり上げの際には、機体が動揺して転倒する恐れがあるので、斜めづりは避け、走行、旋回は低速で行うこと。

(3) 衝突、挟まれ、巻き込まれ防止

- ア 機械の通路に、機体や安全キャブ・フレームに接触する障害物がないか確認すること。
また、ビニールハウス等の施設内で作業を行うときは、衝突や挟まれる恐れがあるので、配管、支柱、誘引ワイヤー等の障害物に注意すること。
- イ 伴走車と組作業を行う場合は、合図を決めておき、協調性を持って作業できるようにすること。
- ウ 収穫物等の運搬車への移し替えの際には、衝突や人の挟まれ等に注意しながら行うこと。
作業機や積載された荷物によって周囲が見にくい場合には、誘導者を決め誘導に従うこと。
- エ 作業機への巻きつき、詰まり等を除去する際には、トラクターのエンジンを停止し、作業部の停止を確認した上で行うこと。また、油圧式の昇降部を上げている場合には、必ず昇降部落下防止装置を固定にしておくこと。
- オ 脱穀機やさい断機等では、詰まりに注意し無理な投入は行わないこと。また、排出口からの飛散物や排出物の堆積による詰まりにも注意すること。

(4) 排ガス中毒防止

- 室内やビニールハウス内では、排ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので、十分換気しながら暖機運転や作業を行うこと。

(5) 火傷防止

- ア 熱湯が噴出して火傷をする恐れがあるので、運転中、停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないこと。
- イ 点検、整備で内部に触れる場合は、火傷をする恐れがあるので、極力機械が冷めた状態で、厚手の手袋等で十分な防護してから行うこと。

(6) 作業機の利用（装着方式別）

ア けん引式作業機

- (ア) けん引時、カーブを曲がる時には、内輪差に注意しながら運転すること。後退時には逆ハンドルになるので、慎重に行うこと。
- (イ) 降坂時には、ブレーキの効きが悪くなるので、エンジnbrake、作業機連動ブレーキを併用すること。また、ジャックナイフ現象が起こる恐れがあるので、急ブレーキ、急旋回を行わないこと。
- (ウ) ほ場内の作業を行う際には、作業前に機械が余裕をもって旋回できる枕地を設けること。
- (エ) ダンプ装置付きの場合、転倒する恐れがあるので、走行中のダンプ操作は極力行わないこと。また、急傾斜地では、ダンプ操作は行わないこと。
荷台下での点検整備は、荷台の落下防止装置を固定にしてから行うこと。
- (オ) フォーレンジハーベスターとワゴンの組合せ等多連式の場合には、運転が複雑になるので、十分注意して運転すること。

イ 後方直装式作業機

- 後退式の作業機では、後向きで不慣れな作業となるので、十分に注意しながら作業するとともに、首や腰に負担がかかりやすいので、随時休憩をとること。

ウ 側方オフセット作業機

- 傾斜地で等高線方向に作業する場合には、極力オフセット側を山側にすること。

エ 前方装着式作業機

- (ア) 前輪空気圧は、前輪荷重に見合う圧力にしておくこと。
- (イ) 前方視界が狭くなるので、周囲に気を付けながら作業すること。

(7) 資材等の取扱い

- ア 牧草、堆肥等は、水分によって比重、流動性等物理性が大きく異なることを念頭に置いて梱包、運搬作業を行うこと。
- イ タンク等に液体を入れて移動する場合は、重心が移動し機械が不安定になることがあるので、低速で行うこと。
- ウ キャブのエアコンに農業用フィルターが装備されていない場合には、農薬散布の際に外気を遮断し、保護具を装着して作業すること。

(8) 騒音、振動

- ア 送風機を持つ作業機は、騒音が大きいものが多いので、イヤーマフ等適切な保護具を用い、長時間の連続作業は避けること。
- イ あぜ塗り機、振動サブソイラー等は、振動が大きいものが多いので、長時間の連続作業は避けること。

6 作業後

(1) 点検・整備

- ア 作業後の点検・整備を必ず行うこと。その際、平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、可動部が停止してから行うこと。なお、点検・整備のため外した安全カバーは、終了後必ず装着すること。
- イ 昇降部を上げて点検するときは、ロックをかける等の落下防止措置を施すこと。
- ウ ジャッキアップの際は、エンジンを停止させ、平坦で十分な強度を持つ床面上で行い、機械の所定位置にかけ、ジャッキとトラクターの安定を確認しながら行うこと。
- エ 火災の恐れがあるので、バッテリー、配線、マフラー、エンジン周辺部は常に清掃しておくこと。また、シートカバーは、マフラー、エンジンが十分冷えてからかけること。
- オ バッテリー充電中は可燃性ガスが発生するので、換気しながら行うこと。
- カ 尿散布機のタンク掃除では、タンク内に転落する恐れがあるので、梯子を固定してから昇降すること。

(2) 機械の管理

- ア 管理のための記録等
 - (ア) 運転日誌、点検・整備日誌等を作成し、記録に基づく適正な管理を行うこと。
 - (イ) 法律に基づく点検は必ず受けること。法律の規定がなくても、年に1回は認定整備施設（「農業機械整備施設設置基準」昭和44年5月31日付け44農政第2285号農林水産事務次官依命通知）等で整備すること。
- イ 機械の保管
 - (ア) 格納庫は、十分な明るさが得られるように電灯を設置し、換気窓や換気扇を設置して換気をよくすること。
 - (イ) トラクターは、昇降部を下げ、キーを抜いて保管すること。
 - (ウ) 搭載式やけん引式の作業機では、格納時に機体を安定させるためのスタンド等が付属している場合は必ずスタンド等を使用すること。これ以外の作業機は、着脱や格納庫内での整理を安全に行うため、キャスター付きパレットに載せることが望ましい。
 - (エ) フォーク付きのアタッチメントは、フォークの先端をカバーしておくこと

(3) 機械を貸与する場合

- 機械を貸与する際には、適切な整備を行い、機械の使用方法、安全上の注意を十分に説明するとともに、取扱説明書の熟読を指示すること。